

基礎研 レター

韓国における生命保険市場の現状や今後のあり方

生活研究部 准主任研究員 金 明中
(03)3512-1825 kim@nli-research.co.jp

1—はじめに

韓国では少子・高齢化の急速な進展に伴い、社会保障に対する国の支出が継続的に増加している。そこで、社会的リスクに対する政府の公的制度と共に、自助努力としての民間保険の必要性に対する認識がますます広がっている。韓国の高齢化率は2013年現在12.2%でまだ日本より低い水準であるが、その進行速度は日本より速い。2060年には高齢化率が40.1%に到達し、日本の高齢化率と変わらなくなることが予想されている。韓国政府としては、老後所得保障の2階部分として生命保険を含む民間保険の活性化を望んでいるが、最近の景気低迷などにより、とくに若年層の生命保険離れが進んでいる。

本稿では、韓国保険研究院が毎年実施している「保険消費者アンケート調査」や、韓国生命保険協会の「2013 生命保険 FACT BOOK」を用いて韓国における生命保険市場の現状や今後のあり方について紹介したい。

2—韓国における生命保険の加入状況

韓国保険研究院が2014年4月から5月にかけて成人男女1200人を対象に実施したアンケート調査の結果によると、2014年における生命保険の世帯加入率は85.8%で、2013年の83.0%に比べて2.8%ポイント上昇した。また、世帯加入件数も4.0件で2013年の3.6件に比べて0.4件増加している。生命保険の加入率の回復は2008年金融危機以降、6年ぶりのことである（表1）。

表1 韓国における生命保険の世帯加入率や世帯加入件数の動向

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
加入率(%)	87.2	90.8	89.9	88.0	87.3	86.3	83.0	85.8
加入件数(件)	4.1	4.1	4.0	4.1	3.8	3.8	3.6	4.0

出所) 保険研究院 (2014) 「2014年保険消費者アンケート調査」

一方、生命保険の個人加入率も2013年の77.3%から2014年には79.3%に上昇した。既婚者の加入

率（81.4%）や加入件数（1.8件）はそれぞれ、未婚者の加入率（70.5%）や加入件数（1.3件）を上回った。しかしながら、最近の加入率の対前年比増加率は未婚者の方が既婚者より高かった。また、既婚者の中の子どものいない既婚者の加入率の対前年比増加率が子どものいる既婚者のそれより高く表れた（表2）。

表2 韓国における生命保険の個人加入率や個人加入件数の動向（婚姻状態や子どもの数別）

単位：%

		加入率			加入件数		
		2012	2013	2014	2012	2013	2014
婚姻状態	既婚	82.2	79.8 (-2.9)	81.4 (2.0)	1.6	1.7 (6.2)	1.8 (5.9)
	未婚	66.5	67.0 (0.8)	70.5 (5.2)	1.0	1.0 (0.0)	1.3 (30.0)
既婚者の 子どもの数	なし	62.3	66.5 (6.7)	74.6 (12.2)	1.0	1.1 (10.0)	1.3 (18.2)
	1人	87.9	79.8 (-9.2)	80.5 (0.9)	1.8	1.5 (-16.7)	1.8 (20.0)
	2人	88.6	89.3 (0.8)	86.4 (-3.2)	1.8	2.1 (16.7)	2.1 (0.0)
	3人以上	84.5	74.6 (-11.7)	80.0 (7.2)	1.8	1.6 (-11.1)	2.0 (25.0)

注) () 中の数値は対前年比増加率

出所) 保険研究院 (2014) 「2014年保険消費者アンケート調査」

男女別には女性（82.5%）が男性（75.9%）より高く、所得階層別には高所得層（85.2%）が中所得層（78.4%）や低所得層（68.7%）より加入率が高いと調査された。年代別には40代の加入率（85.8%）が最も高く、次は50代（85.6%）、30代（81.2%）、60代以上（72.5%）の順であった。一方、20代の加入率は69.3%で2013年の67.0%よりは少し上昇しているものの、全体加入率79.3%とは大きな差がある低水準となっている¹。

生命保険の商品別加入率は、疾病治療重点保障保険²が75.5%で最も高く、次が終身保険（38.0%）、年金保険（30.0%）、致命的疾病保険³（13.8%）、貯蓄性保険（13.4%）、変額保険（7.7%）、教育保険（4.7%）の順であった（表3）。

疾病治療重点保障保険の加入率が高い理由としては、早いスピードで高齢化が進展していることや公的医療保険の自己負担率が高いことが挙げられる。つまり、年齢が上昇するとともに病気にかかる確率も高くなり、一度病気にかかるとう治療期間も長期化していくが、公的医療保障制度である「国民健康保険」の重大疾病に対する保障性が低いために、人々が疾病治療重点保障保険への加入を高めた

¹ 最近5年間の調査で20代の加入率が最も高かった年は2012年（74.5%）である。（2012年の全体加入率は79.3%である。）

² 癌、過労死関連特定疾病、脳血管疾病、心臓疾患、糖尿病、女性慢性疾患、婦人科疾患などのような疾病の発病および治療にかかる医療費や生活費を保障する保険。

³ 被保険者が致命的疾病（Critical Illness）にかかった時、死亡保険金の一部を生活費として支給する保険。被保険者や家族は、受領した一部の保険金を被保険者が亡くなる前の高額の治療費、生活費、看病費などとして使い、被保険者が亡くなると残った死亡保険金は遺族に支給される。

と考えられる。

表 3 生命保険の商品別個人加入率

単位:%

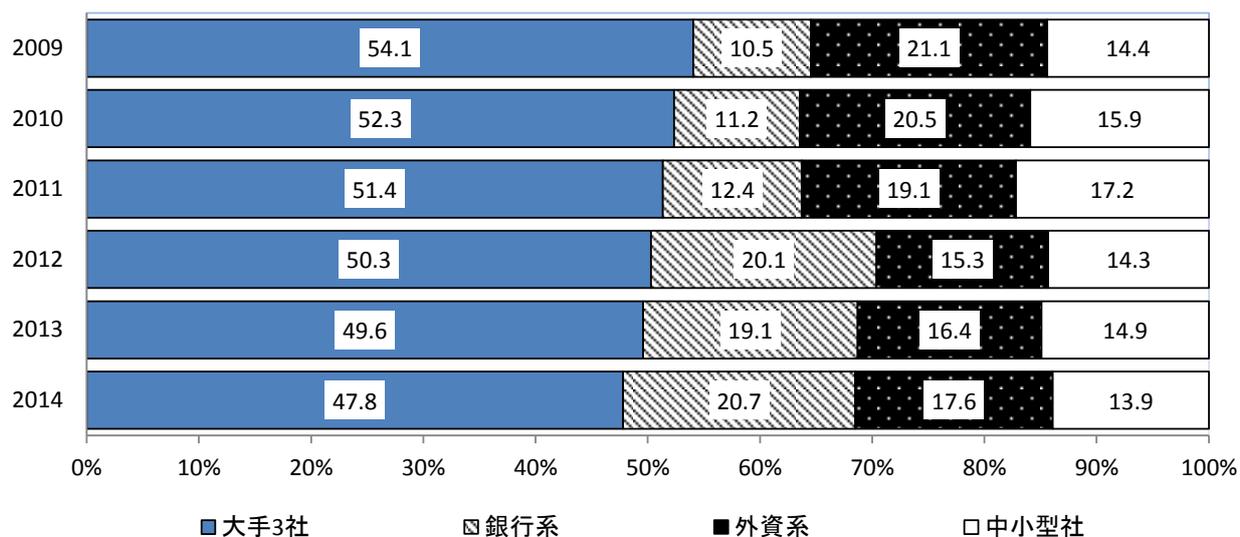
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
疾病治療重点保障保険	77.6	79.9	81.4	82.1	77.6	77.3	75.6	75.5
終身保険	45.5	48.3	44.9	41.4	41.8	37.2	36.6	38.0
貯蓄性保険	16.4	18.9	15.9	14.3	13.5	11.8	12.2	13.4
年金保険	22.1	21.0	21.1	22.6	26.1	21.0	22.8	30.0
教育保険	17.7	8.8	6.6	6.8	5.8	5.8	5.2	4.7
致命的疾病保険	10.9	11.3	11.6	10.8	12.9	13.6	12.7	13.8
変額保険	7.7	11.8	10.2	9.6	9.6	10.8	8.9	7.7

出所) 保険研究院 (2014) 「2014 年保険消費者アンケート調査」

3—韓国における生命保険市場の現状

韓国では現在 25 社の生命保険会社が営業活動をしているが、各社のシェアは大きな変動を見せている。保険料収入を基準とした市場シェアを見ると、2009 年に 54.1%であった上位 3 社(サムソン生命、ハンファ生命、教保生命)の割合は、2014 年第 1 四半期には 47.8%まで低下した。一方、同期間における銀行系生命保険会社のシェアは 10.5%から 20.7%まで上昇した。このように銀行系生命保険会社のシェアが増加した理由としては、農協の農協共済が 2012 年 3 月から農協生保と農協損保に分離し市場に参入した点を挙げられる。つまり、従来は協会の外枠であった農協共済が農協生保になることにより業界の枠内に入ってきたのが銀行系生命保険会社のシェアを増加させたと言える。また、同期間における国内の中・小型生命保険会社の割合は 14.4%から 13.9%に、外資系生命保険会社の割合は 21.1%から 17.6%に低下した(図 1)。

図 1 生命保険業界の市場シェアの動向



出所) 生命保険協会 (2014) 「2013 生命保険 FACT BOOK」

景気変動や市場状況の変化による即時年金⁴等年金保険の販売減少により、初回保険料収入（2013年）は、前年同期に比べて52.1%（10.6兆ウォン（1.2兆円⁵））も低下した。販売チャネル別には伝統的な募集チャネルである保険設計士（保険募集人）による初回保険料収入が前年同期に比べて54.2%（2.4兆ウォン（0.3兆円））も低下した。またバンカシュアランスによる初回保険料収入も前年同期に比べて60.6%（5.6兆ウォン（0.6兆円））も低下した。

一方、初回保険料収入を基準とした販売チャネル別シェアは、バンカシュアランスが55.4%で最も高く、次に保険設計士（20.3%）、会社直接販売（17.3%）、代理店（6.7%）の順であった。

2013年末の生命保険業界の保有契約件数は合計8,331万件で、保有契約額は2,184兆ウォン（240.2兆円）に達した（対前年同期比3.4%上昇）。新規契約額は前年同期に比べて2.9%低下したが、解約・失効額が4.0%下がったことにより保有契約額は増加することになった。保険種類別には死亡保険（1,579兆ウォン（173.7兆円））が最も多く、その次に生存保険（361兆ウォン（39.7兆円））、生死混合保険（165兆ウォン（18.2兆円））、団体契約（57兆ウォン（6.27兆円））、特別勘定（22兆ウォン（2.4兆円））の順であった（表4）。

表4 保険種類別保有契約額の動向

単位：兆ウォン

	生存保険	死亡保険	生死混合保険	団体契約	特別勘定	合計額
2009	250	1,307	102	53	19	1,732
2010	276	1,343	109	49	17	1,793
2011	319	1,462	148	49	15	1,993
2012	352	1,528	162	52	17	2,112
2013	361	1,579	165	57	22	2,184

出所) 生命保険協会（2014）「2013生命保険FACT BOOK」

保険料の支払い方法は月払いが84.4%で最も高かった。一方、一括払いは貯蓄性保険の販売が大きく減少したことにより、保険料収入に占める割合も2012年の23.4%から2013年には10.8%まで低下した。

2013年の生命保険会社の総資産は2012年に比べて9.1%上昇し600兆ウォン（66兆円）となった。その内訳を見ると、有価証券（350兆ウォン（38.5兆円、58.6%））が最も多く、次は特別勘定資産（102兆ウォン（11.2兆円）、17.1%）や貸出債権（89兆ウォン（9.8兆円）、14.9%）の順であった。不動産が総資産で占める割合は2.5%（15兆ウォン（1.6兆円））に過ぎず、2012年の2.6%から0.1%低下した。生命保険会社は原則的に非業務用の不動産の所有が禁止されており、総資産が増加する中で、今後も不動産が占める割合は継続的に低下することが予想されている。

4—おわりに

本稿では韓国における生命保険市場の現状について紹介した。韓国の生命保険市場はすでに飽和状

⁴ 掛け金を一括で払い込み、毎月年金を受給する年金。

⁵ 為替レート 1ウォン=0.11円（2015年5月11日現在）

態に至っているとされており、さらに最近は若年層の保険離れが進んでいる。従って、高年齢層や若年層がより保険に加入できるように保険商品を多様化し、保険商品に対する信頼性を高める必要があるという声が高まっている。

大手生命保険会社は国内の生命保険市場の成長性や収益性が悪化していることや、人口高齢化による、更なる被保険者の減少を見通し、2000年代中盤以降、中国や東南アジアなどに進出しているが、まだ大した実績は挙げていない。韓国の生命保険協会は、生命保険会社の海外進出を支援するために、海外の生命保険協会と MOU⁶を締結し、グローバル保険関連事業に対する共同調査および研究、保険関連統計や法令・制度に関する情報交換、人的交流の活性化などを推進している。直近には2013年にインドネシアとベトナム、2014年にはイギリスとタイと MOU を締結している。

2015年における最も大きな課題は、金融監督当局の財務健全性に対する規制強化や保険関連事業に対する規制緩和への対応をどうしていくかである。2014年から始まった金融監督当局の財務健全性の規制強化計画は2018年の完了を目標にしており、価格決定に対する保険産業の自律性を強化する方向で規制改革が進むと見通されている。今後の韓国政府の規制改革や生命保険業界の対応が注目されるところである。

⁶ MOU は、了解覚書 (Memorandum of Understanding) の略称で、行政機関等の組織間の合意事項を記した文書である。通常、法的拘束力を有さない。